日本クリスチャン・アシュラム連盟　秋季号

開心聴
静満
充身
献仕
奉

日本アシュラム

Autumn 1981　United Christian Ashrams of Japan　37

▼連盟は創始者の祈りによって各地に生れたファミリーの全国的な交わりであって、常に新しい家族（単位）の参加を期待している。

スタンレー・ジョーンズの遺著『神の然り』を訳して

海老沢　宣道

一九六一年に米国で『太陽にかける橋』という映画が作られ、日本でもテレビで放映されたが、その中で日米開戦の危機迫る時、ジョーンズ博士がホワイトハウスの裏門から秘かに入って、ルーズベルト大統領に天皇陛下あての親電を打つように依頼する姿を見た。また今年八月十五日にもNHKで『マリコ』が放映され、そこでも日本外交官寺崎のグウエン夫人の願いで大統領に交渉しようと承諾する博士の姿が出ていた。

ジョーンズ先生はこのように説教した福音を行動でも示された。若い日に主に従ってインドに渡り宣教師として六十余年を献身した彼は、インド人と同じ生活を送り、彼らの心の友となったが、わが日本にも特別の愛を注がれた。遙か戦前から日本の人口、食糧、経済、貿易、領土などの問題について各国の指導者に進言し働きかけて下さったと伺っている。その日本が敗戦して絶望の底に落ちた時、福音の光を携えて、二、三年おきに前後十回も来日され、数十ヶ町村を廻り、霊的励ましを与え多くの魂が救われた。先生は六大陸を股にかけて伝道された今世紀最大の宣教師で、私は『現代のパウロ』と称したが、最後の第十回日本伝道は一九七一年で十年前の秋のことであった。既に八七才の高令にも拘らず、私共の求めに応じて、二ヶ月間に四二都市で一五四回の説教、八地区で二泊三日のアシュラムを指導された。私共は師を通して今までにない恵みを受け、深い感謝のうちに羽田でお見送りしたのだが、数日してオクラホマ州のアシュラムを指導中に卒中で倒れたとの至急報を受けて心臓のとまる思いがした。それから十四ヶ月の闘病生活中に口述された原稿を娘夫妻（マシューズ監督）が編集し、漸く五年前に出版されたのが『神の然り』である。これは最後の日本伝道でコリント第二書一章十九節によりなされた説教、斗病中の信仰体験（肉的敗北を霊的に勝利したこと）。多くの人間が抱く十二の質問に対する解答、勝利の日記などが含まれている。

内容は福音の奥義、主イエスの究極性を説くために、深遠重厚な文章がしばしば現われ、棒読みでは理解されない所もあろう。ぜひ繰返し味読して頂きたい。至る所に適切な例話を配置されており、感銘を受けることは間違いない。先生は二八冊の名著を出版して全世界に愛読されたが、本書は最後の遺書である。半身不随、失明、言語障害にもめげず、かくも明解に福音を説いて下さったばかりか随所にわが日本の事が出てくるので訳しながらも胸つまり、幾度となく涙がこぼれて仕方がなかった。

原書名『神の然り』は少々難解なので、副題として『キリストに明け渡した人生』をつけた。先生は文字通りそのような人生を送り、主に明け渡すことこそ、敗北（否）の人生に勝利する（神の然り）の道であることを示されたからである。

昨秋第四回世界アシュラムがインドのサトタルで開かれ、七名の同志と共に参加した時、フイリスの丘に眠る博士の墓前に額づいて、お約束したことを漸やく果し得て感謝に耐えない。

全国の主に在る兄姉が一人でも多く本書を愛読され、先生の御遺志をくみとり更に忠実な主イエスの弟子となられるように祈ってやまない。終りに立派な印刷と造本を献身的にして下さった金剌兄の労に心からの謝意を表したい。

編集人　海老沢宣道
発行人　大石嗣郎
定価　一部50円　〒50円

アシュラムの基本的生命

スタンレー・ジョーンズ

ここに紹介する文章はインドでクリスチャンのアシュラムを始められて十年後、一九三九年にスタンレー師が書かれたものの抜粋である。

◇

クリスチャン・アシュラムはインドの教会で自然に発生した運動で、究極の解答を深く探究するもの、実際には恐らく半意識的に全体主義を生活に取戻す試みである。

アシュラムの語源について、ある権威は『労働から離れる』ことと言い、ある人は（ア）を強化の意に解して、『労働の強化』を意味すると言う。事実、アシュラムにはこの両面がある。ある人は生活や労苦を離れ、神に就いての瞑想に入るために静けさを求めてアシュラムに来る。これは退修である。一方に外界への奉仕に献身するための霊的訓練を受ける目的でアシュラムに来るタイプもある。自己訓練と他人への奉仕との両者を求めることは非常な労苦であるが、以上二種の間にも多くの変種がある。

これは実際、古代の森の学校へ教師（グル）と生徒（ケラス）が共に入り、神を探求するために思索と霊的訓練の共同生活をしたことから起った。それは宗教によって魂を表現し、生活を単純化し、霊的探求を努めることを特色とする。アシュラムは森で始まったが、今日は都会の中でも守られている。

アシュラム精神の充満者としてキリストを仰ぎ見ることは当然のことである。信徒としてはアシュラムの表現法を身につけるのが自然であった。これはキリスト教の単純性と共同の霊的探求とに適合した方法であった。

人間の心は生命の全体をある中心的な支配に集め継続的に全体を包む交わりを求めるものである。生命は個人的であると同時に協同的である。私たちはそれを個人主義と社会主義の長所を集め、夫々を満し、欠けを補う神の国の総合的秩序に見る。

私たちはこの秩序を表現し得る型として、アシュラムを採用した。これは神の国の秩序を探求する営みである。アシュラムを始めた時は、まだこの探求はそれほどでもなかったが、深められるにつれて、この点がはっきりしてきたのである。

アシュラムは生命と熱望の流れの中で一つの型を提供した。それは宗教的、文化的、経済的、民族的なものであったので、採用したのである。

従ってそれは生命のいろいろな流れが一つの新しい充実した生命と共に集まる場を用意することができた。それは全てキリストの周辺に集中するものである。アシュラムは完全性の訓練、人間の考えを生命それ自体の下で、その結果をためす必要性、即ち主の御言が肉体化する必要のあった場所であった。

更に信者は完全の訓練だけではなく、彼が責任を持つ親密な群の訓練を必要とし、建設的な暗示と卒直な批判とによって、各自の成長を助けるために相互に理解ある誓いがなされる場所を必要とする。

世界の将来は現在の願いを未来の目的に従属させ、紀律ある共同の方法で行動できる訓練された人々の手中にある。訓練は善悪何れにも一つの力である。

キリスト教は一人の主と十二人の弟子たちという紀律ある群によって始まった。彼らは単純さと誠実さと共同の忠誠に生きるためであった。その全ては神の国の個人的また共同的道具となるためである。弟子という語と紀律という語は共通の意味を持つ。紀律なしに弟子はない。

キリスト教の紀律なき型に対する反動として多くの運動が起っている。これらは神の国を代表しない思想に対して紀律のある健康なしるしである。私たちは神の国のひな型を現わす神の家族になろうと試みているのである。神の国について聞くだけでなく、たとえ不完全な形でも小さな姿で実際の生活の中にそれを見る必要がある。

あるヒンズー教徒がアシュラムを去る時、『あなた方は神の家族だ』と言った。彼は私たちの言語を理解しなかったので、私が驚くと、『そう言語は判らなかったが、あなた方が神の国の家族としての喜びと自由を持っているのを見た』と答えた。アシュラムというインド語に捕われる必要はない。ここに普遍的な生活

（ロマ書十章九節）

アシュラムの五大原則
（一）キリストへの明渡し
（二）御言への静聴と立証

最新刊
スタンレー・ジョーンズ博士の遺著
神の然り　B6判　220頁
定価1200円　送料250円
〈キリストに明け渡した人生〉
海老沢宣道訳
日本を愛し，救霊のため戦後十回の伝道を終え帰米後卒中に倒れた病中一年余に口述された万人への遺言が，一人娘マシューズ夫人により編集出版された。宇宙人生の真理を探求する者の必読書。
発行所　日本クリスチャン・アシュラム連盟

の基がある。ある群が共通の目的の下に共同の交わりを共に生きる時、それは神の国の一細胞となるのである。かくて人々は他人の中に御国の子らを見る。御国は彼らの忠誠の中心点である。それは主イエスの支配であるから。この御国の子らが世界の希望として、個人的にも共同的にもそれを証しするのである。

（ピリピ書　第二章　十一節）

（三）聖霊の啓導と充満
（四）神の国の体験と献身
（五）教会への奉仕と伝道

アシュラム発祥の地
サト・タルを訪ねて(四)

海老沢　宣　道

博士の墓前に祈る

十月十二日（日）第四日の朝六時に起床、各自静聴の時を持ち、七時から朝もやの中をチャペルに登る。バーグ兄弟が厳そかに聖餐式を司どり、小生も助祭を勤めさせて頂いた。聖書の御言を英語、日本語、インド語、スペイン語で拝読するために四名が聖卓の周りに立ち、祈りの後、一同に分餐され、主の御体を受けることができた感動は深い。

さんびを歌いつゝ食堂に向い、次で聖書の時はハーター兄弟によりマタイ福音書の講義を伺う。昨日パロ王を演じた人である。コーヒータイムで個人的交わりを深め、十時半からタイタス兄弟の福音の時、ヨハネ福音書十七章二〇ー二六節により、主との神秘的一致と瞑想の方法についてヨガ、イスラム・バティ運動などと比較研究、今日の教会は瞑想を忘れている。主イエスに倣って静かに祈る必要ありと説かれた。タイタスはインド服を着、裸足で聖壇の前に坐り、低い台の上に聖書を置いて語る姿は、昔シナゴグで守られた塾のような感じであった。

祈りの細胞は三十分で終り、中食の後、毎日の通りファミリー集会がマシウズ兄弟によって進められた。

一時に森の中道を表門に向い、右手の小高いアイリスの丘に登る。そこはジョーンズ博士がよく独りで主と語り合った地点との事で、今は真白い十字架の墓が建てられている。一同はその周囲に集まり、マシウズ夫妻（博士の娘）の司会で、シャンティバーナ記念礼拝を守った。各国語での祈りやさんびがあり、私は日本語で博士に対する感謝と主が今後も日本各地のアシュラムを守り導き給うよう祈り、『神の然り』の翻訳を必ず完成すると誓った。

二時から本館に帰り、五十年を記念してタイムカプセルに各国の記念品、印刷物を思い思いのまま入れて壁の中に封じ、百年祭（二〇三〇年）に開封せよと明記したタブレットを張りつけた。私たちは用意がなかったので日本アシュラム季刊紙や小冊子、絵はがきなど手持ちのものを入れておいた。

三時からティータイムに日本の茶道を見たいとの希望が多く、竹で作ったひしゃく、長い松葉の茶せんなどそれらしいものを集めて披露した。お手前は日本からのお土産の羊かんやセンベイをそえて参加者たちに非常に喜ばれた。

五時からチャペルで夕拝が大石兄弟の司会奨励の下に守られた。マルコ福音書六章四一、ルカ七章一八ーによって主イエスの恵みの深さ、一人一人を大切にされた愛を受けようと力強い勧めをし、有志の祈りが続いた。続いてバーグ兄弟による医しの時があり、小生も助祭をつとめたが、多くの兄弟が涙ながらに主の医しを受けたのを見て驚いた。

夕食後は食堂でマシウズ兄弟の司会で充満の時があり、一同、第四回国際アシュラムで受けた恵みを証し分ち合いが行われた。続いてワグナー兄弟がソライドで日本における第三回国際アシュラムを映写、夜の沈黙の時に入った。

翌十三日（月）は午前五時起床、朝食後直ちに米国班、次いで日本班に分れて出発、なつかしい森の道場を後にし、夫々各地の見学に向った。

各地からのニュース

◇東京城西アシュラム

第五回目の城西アシュラムは『イエスは主である』という主題のもとに、去る九月二三日（秋分の日）の午前十時より、日本基督教団大宮前教会にて行われた。参加人員三十五名、満丸茂、植村俊雄、草村美、渕江淳一の各委員に加えて、神山良雄、島隆三の二委員と、今回格別にご愛労頂いた満丸愛彦師と大宮前教会の役員方の準備と祈りによって主のご栄光を拝することができたことを参加者一同と共に感謝します。

（渕江淳一）

◇東京城南アシュラム（第二回）

第二回城南アシュラム（碑文各教会）は九月二十日礼拝后の二つのファミリー・アワーを挟んで六時間行った。プログラムの中で開心の時、祈りの細胞に力点をおき、四分団にそれぞれ分れ、アシュラム体験者が助言した。アシュラムの異様な名称に捕われ、仲々各自が明渡すのに手間取った。今後は教会の普通の集会にもアシュラムを積極的に取入れる方針である。三十五名。

（大石嗣郎）

◇関東アシュラム（十九回）

十月八日（木）～十日（土）、湯河原厚生年金会館（今年初めて）で行われた。今年は国際身体障害者年にちなんで、主題に『全うされる愛』（Ⅰヨハネ4・12）が選ばれた。参加者数は四九教会から八一名、内六四名が連鎖祈禱を守り、うち初参加者二七名の多きに恵まれた。

今年は新委員長岡田実氏の指揮の下に、プログラムの立案を綿密にした。事前に参加者の準備用として、〈アシュラムのしおり〉を作った。他地域のアシュラムとの連携を密にしようということで、北海道から白川鄭二氏（函館千歳教会牧師）をお招きした。同氏から祈りの細胞を教会に根付かせる問題、静聴の持ち方、その他について励ましを頂いた。

霊的助言者として立てた満丸茂氏の『内住のキリスト』のメッセージ等、数々の恵みで成功裡に終了した。また今後も他のアシュラムとの提携をしていきたいという話題が出た。

書記　寺井俊健

◇潮来教会アシュラム

潮来教会の初のアシュラムは、小野一良牧師の非願として周到に準備された連日の早天祈禱のもとに、十月十七日（土）午後四時―十八日（日）午後二時の一泊二日、老人休養ホーム〝むつみ荘〟にて開かれ、関東アシュラムから渕江委員が派遣されて指導に当たった。中心聖句「ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神をあらわしたのである。」のもとに既に準備祈禱の段階で奇蹟が現れ、参加人員四十名余涙と共に開心、賛美と証し晩禱に続いて翌朝静聴の時から恵みが溢れ、御言に続いて証言が相続き、全員が込み上げてくる恵みを証しして歓喜の中に終ることができた。このアシュラムを契機に受洗に導かれた事実を見せられて、祈りに応え給うた〝主なるイエス・キリスト〟の御名を崇めて賛美します。

（渕江淳一）

◇九州アシュラム（十六回）

第十六回九州アシュラムが福岡女学院八木山研修寮にて十月十九日、二十日と行われた。主題は『イエスは主である』静聴にマルコ福音書の全体を三回に亘り四分団で恵みを分ちあった。バプテスト連盟・ナザレン団、日基教団の北九州福岡近辺の諸教会の教職、信徒四十名が参加した。あかし・祈りが活発にされ、S・ジョンズ師の足跡が生きているのを見た。

（大石嗣郎）

◇札幌アシュラム（第二回）予告

十一月二二日（日）午後から二三日（月）午後まで一泊二日間。真駒内青少年センターにて、主題『イエスは主なり』の下、海老沢宣道師を迎えて開く。申込は札幌バプテスト教会（加藤亨牧師）まで。

◇関西地区アシュラム（十五回）

右と同じ日時、千里山シオンロッジにて中路、辻中他委員の奉仕により開く。申込は扇町教会まで。

◇東京城北アシュラム（十三回）

明年二月十一日（木）一日間。新宿西教会にて六教会共催。助言者は岡田、海老沢、神山池委員。申込は新宿西教会（有馬師）へ。

◇連盟賛助献金

（三十六号以后の賛助金）

丸留建設（広告献金）	二万円
鈴木留蔵（千葉）	一万円
東北アシュラム	二万円
北添清美	一千円
九州アシュラム	二万円
扇町教会	二万円
辻中昭一	一万円
書籍売上	四〇、五〇〇円
小計	一四〇、〇〇〇円
○八一年度累計	三八一、五〇〇円

◇第五回世界アシュラム

明八二年七月十五日から三泊四日間　フインランド国ヘルシンキ市郊外にて、各国代表が参加して守られる。日本連盟も十名を送る予定で準備中。

好評

海老沢宣道著

アシュラムの原則と実際

定価300円　〒70円

アシュラムの創始者・故スタンレー・ジョーンズ博士の直伝を受けた著者が，平易に解説し今回小冊子にまとめられた。参考書として活用されたい。

日本クリスチャン・アシュラム連盟

酸素・(医療用共)・溶接機・器材販売

(株)泰平酸素商会

代表取締役　三室泰平

本社（132）東京都江戸川区船堀6-2-12

TEL 03（688）3333

船堀朝禱会（於本社）毎週木曜朝7時

▼アシュラムとは故スタンレー・ジョーンズ博士がインドの退修方式を

東京都目黒区中央町1-21-10
碑文谷教会気付
日本クリスチャン・アシュラム連盟